

21世紀型リベラルアーツの現状と大学・企業等の対話の可能性

1. 目的と概要

大学評価研究所が前年度までに行った「学士課程教育における現代社会で求められている課題に対応する能力育成に関する調査研究」においては、各大学の教育努力が明らかとなりました。時代の移り変わりとともに学生に求められる能力も変化を遂げつつありますが、いわゆる「21世紀型リベラルアーツ教育」という視点においても、汎用的な能力の育成に関わる教育システムの充実など、様々な形での努力が見られたところです。

一方、この調査で浮き彫りになったのは、卒業後に学生を受け入れる企業・団体と大学との認識の差です。大学の教育努力が企業等に十分に伝わっているかといえば必ずしもそうではなく、企業等と大学の間には、教育の内容に関する理解に違いがあることが明らかになったのです。その意味では、両者をつなぐコミュニケーションの可能性を拡げ、展開していくことが、今後の大学教育の発展にとって極めて重要だと言えるのではないのでしょうか。

そこで、今回の研究会は、その両者が集う場所として開催いたします。具体的には、前述の調査研究に携わったメンバーと企業等の関係者が登壇し、ディスカッションするとともに、一般の参加者との質疑応答を行います。こうした機会を通じて、両者が今後の大学教育のあり方を考え、相互の理解を深めていくきっかけとなることを目指したいと考えます。

2. 開催日時・形態・プログラム

※敬称略

日 時	2023年7月28日（金）14:00-16:00
開催形態	オンライン開催（Zoom）
プログラム	
14:00-14:05	開会あいさつ
14:05-14:35	研究発表 「大学と企業が求める21世紀型リベラルアーツの共通性と差異：双方のコミュニケーションの活性化を目指して」 山田 礼子（同志社大学教授）
14:35-16:00	パネルディスカッション 登壇者 モデレーター： 小林 浩（リクルート『カレッジマネジメント』編集長） パネリスト： 関根 壮至（株式会社ランナーズ代表取締役社長） 棟尾 顕士（株式会社シスメックス人事本部人材開発部長） 生和 秀敏（広島大学名誉教授） 山田 礼子（同志社大学教授）